

福島第一原子力発電所 建屋開口部等における空气中放射性物質の核種分析結果

採取場所	造粒固化体貯蔵排気設備 (排気出口側)		造粒固化体貯蔵排気設備 (排気出口側)		造粒固化体貯蔵排気設備 (排気出口側)		告示濃度限度* (Bq/cm ³)
試料採取日時刻	2019年5月23日 08:20	2019年5月30日 08:45	2019年5月30日 08:45	2019年6月6日 09:15	2019年6月13日 08:50	2019年6月19日 11:40	
検出核種 (半減期)	試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (/)	試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (/)	試料濃度 (Bq/cm ³)	倍率 (/)	
I-131 (約8日)	ND	-	ND	-	ND	-	1E-03
Cs-134 (約2年)	ND	-	ND	-	ND	-	2E-03
Cs-137 (約30年)	ND	-	5.2E-09	0.00	7.8E-09	0.00	3E-03

* 東京電力株式会社福島第一原子力発電所原子炉施設の保安及び特定核燃料物質の防護に関する規則に定める告示濃度限度

(別表第1第四欄：放射線業務従事者の呼吸する空气中の濃度限度)

本分析は、燃料取り扱い時の空气中放射性物質の核種分析結果である。

試料濃度は、揮発性と粒子状の合計値。

E- とは、 $\times 10^{\text{ }}$ と同じ意味である。

二種類以上の核種がある場合は、それぞれの濃度限度に対する倍率の総和を1と比較する。

本分析における放射能濃度の検出限界値を下回る場合は、「ND」と記載。検出限界値は次の通り。

揮発性のI-131が約6E-9Bq/cm³、Cs-134が約6E-9Bq/cm³、Cs-137が約7E-9Bq/cm³。

粒子状のI-131が約3E-9Bq/cm³、Cs-134が約4E-9Bq/cm³、Cs-137が約3E-9Bq/cm³。

ただし、検出限界値は検出器や試料性状により異なるため、この値以下でも検出される場合もある。